

きく類生産・流通イノベーションによる国産シェア奪還

〔分野〕	野菜・花き
〔分類〕	実証研究型
〔研究代表機関〕	（研）農研機構野菜花き研究部門（地域戦略（きく類シェア奪還）コンソーシアム）
〔参画研究機関〕	（株）日本総合研究所、（株）ファーマインド、（株）フレネットHIBIYA、鹿児島県農業開発総合センター、クリザール・ジャパン（株）、（株）インテック、愛知県、（有）今村機械、JAあいち経済連、鹿児島県大島支庁沖永良部事務所、和泊町、秋田県農業試験場、富山県、長崎県、（株）エルム
〔研究・実証地区〕	1）愛知県田原市、2）鹿児島県大島郡和泊町、3）秋田県男鹿市・潟上市、横手市 4）富山県砺波市、5）長崎県雲仙市

I 目指す地域戦略と研究の背景・課題

1. 地域戦略の概要

「きく類」を対象に「仏花用途規格品の効率生産・安定供給による輪ぎく国産シェア奪還戦略（愛知県）」他、5地域実証に取り組む。輪ぎく実証では、仏花を取り扱う実需者のニーズに合った規格の輪ぎく（切り花長70cm/下葉処理済み）の調整を可能とする切り花調整ロボットの開発と新規規格での効率生産に取り組み、国産の安心品質と商品の取り扱い易さにより、輸入品との差別化を図る。その他、スプレーぎく（鹿児島県）、夏秋期小ぎく（秋田県・富山県・長崎県）を対象に実需者との連携強化を通じて明確化される国産安心品質の切り花供給体制を構築し、輸入品に対する競争力強化を目指す。

2. 研究の背景・課題

切り花基幹品目「きく類」の国内生産供給体制は、小売販売形態の変化に伴う新たな実需者ニーズに対応しきれておらず国際競争の脅威にさらされている。

II 研究の目標

「きく類」を対象に輸入品に対する競争力強化を目指す。輪ぎくを対象とした取り組みでは、仏花用途に向けた規格を設定し、1作平均栽培期間13%減（110日→95日）および単位面積当たり年間収量50%増を目標とする。スプレーぎくおよび小ぎくを対象とした取り組みでは、実需者の適時・適量・適品質・適価格のニーズに対応できる供給体制の構築を目指す。

III 研究計画の概要

1. 国際化と新たなニーズに対応した需給マッチング戦略の構築

きく類を取り巻く情勢の変化に対応するため、実需者の要求項目、要求基準を整理し、現状の国内産地の達成水準を評価する。これらの分析・評価に基づき国際化に対応したきく類の継続的取引関係を構築するための需給マッチング戦略案を提示する。

2. 国際化に対応したきく類生産・流通を支える基盤構築

きく類安定供給を支える基盤を構築するために、①夏秋ギクの安定開花調節に繋がる光周性花成反応の理解に基づいた電照技術の開発、②収穫後処理剤活用技術の開発、③生産組織内の生育情報共有による出荷予測システムの構築に取り組む。

3. 国際化に対応した輪ぎく生産・流通の実証

周年施設「輪ぎく」生産の場合、花束（仏花）需要への対応が遅れ輸入品シェアが拡大している。そこで、販売事業者との連携強化を通じて実需者ニーズの変化に対応した仏花用途規格の導入という新たな視点での取組により生産性の向上を図る。

4. 国際化に対応したスプレーぎく生産・流通の実証

冬季の気象条件に恵まれ、品質・生産コストで海外産地に対抗できるポテンシャルを有している南西諸島でのスプレーぎく計画出荷の精度を高め、実需者の適時・適量・適品質・適価格のニーズに対応できる供給を実現するため、需要者ニーズにマッチした品種選定、開花調節技術の地域適応、地域密着ICT生産管理システムの導入、鮮度管理の高度化、輸送の効率化を図る。

5. 国際化に対応した小ぎく生産・流通の実証

地域背景の異なる実証地において夏秋小ぎくを対象に「電照技術の導入」を核として、各地域での電照技術に適應する品種の絞り込み、夏秋期露地栽培に対応した耐候性LEDの最適化、電照による開花時期調節技術の開発、地域密着ICT生産管理システムの導入、鮮度管理の高度化、輸送の効率化を図る。

きく類生産・流通イノベーションによる国産シェア奪還

「きく類」を対象に輸入品に対する競争力強化を目指す。

【背景】 農業総産出額（H28年）に占める【花き】の割合：3.8%（3,529億円）

「きく類」：国産切り花の出荷量の40%を占め、日本の文化・慣習を背景に国民生活に欠かせないもの【必需品】
国内花き生産の基幹品目：流通量【国産：15.0億本】＋【輸入：3.4億本】 ← 輸入の急増 ← 【国産シェア回復】

「きく類」産出額：680億円* 切り花のうち産出額1位（H28年）*：輸入含まず



東南アジア諸国からの輸入急増
（マレーシア・ベトナム・中国など）

0.8億本（H14） → 3.4億本（H29）
（輸入検査数量）

↑
輸入

輪ぎく [輸入10%超]

SPぎく [輸入50%超]

小ぎく [輸入開始]

【技術要素】 5つの技術要素を品目・地域的情勢にあわせて適切に融合

生産構造/需要分析

開花調節

鮮度保持

ICTシステム

機械/ロボット導入

社会情勢に応じて変化する
需要・販売形態への対応

↓
国産シェア奪還

全国5つの実証地域



① 国際化に対応した輪ぎく生産・流通の実証

【実証地：愛知県田原市】 全国の約1/3の量を供給する輪ぎく供給基地

消費形態にあった規格

⇒ 効率生産体系

⇒ 生産性向上

（花束加工用途への対応）

【切り花調整ロボットの開発・導入】

収益性向上



② 国際化に対応したスプレーぎく生産・流通の実証

【国内産地の供給不足】

【実証地：鹿児島県和泊町】 南西諸島は海外産地に対抗しうるポテンシャルをもつ冬春期のきく類供給基地

実需者ニーズ

⇒ 開花微調節

⇒ 鮮度保持

⇒ 安定取引/
収益性向上

（適時・適量・適品質・適正価格）

⇒ ICT活用

⇒ 輸送の効率化



③ 国際化に対応した小ぎく生産・流通の実証

本州の夏秋小ぎく生産 → 開花調節技術が未導入 → 気候変動 → 安定供給のほころび → 輸入の脅威
稲作地帯 → TPP大筋合意 → 園芸振興（小ぎく導入） → 地域農業の発展

実需者ニーズ

⇒ 電照技術
（開花調節）

⇒ 苗移植機

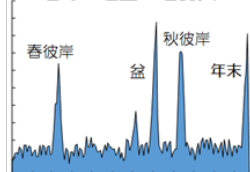
⇒ 安定取引/
収益性向上

（適時・適量・適品質）

⇒ LED最適化

⇒ 鮮度保持

⇒ 複合経営モデル



特異需要期への対応

⇒ ICT活用



【地域農業の発展】 ← 【園芸振興】



実需要と連動した安定供給体制の構築 → 国産シェア奪還